

授業概要

保育者が子どもに寄り添いながら子どもを豊かなお話の世界に浸らせたり、子どもの成長と言葉の関係をつかんだりしながら言葉の発達を促す関わり方や援助の在り方を学ぶ。そのため、幼稚園教育要領、保育所保育指針などを踏まえたうえで絵本、紙芝居、素読などのグループ活動を重視しながら、保育現場で実践できる基礎的な内容の講義を進めていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子どもの発達と言葉の獲得
第 3 回	子どもの発達に応じた保育者の関わり（0歳児～2歳児）
第 4 回	子どもの発達に応じた保育者の関わり（3歳児～6歳児）
第 5 回	保育所保育指針での言葉の取り扱い
第 6 回	幼稚園教育要領などでの言葉の取り扱い
第 7 回	言葉の発達を促す援助
第 8 回	言葉の発達と読み聞かせ・素読
第 9 回	言葉の発達とマルチメディア
第 10 回	言葉の発達と手遊びなど
第 11 回	絵本を読む
第 12 回	紙芝居を読む
第 13 回	言葉で遊ぶ
第 14 回	言葉と日本語
第 15 回	学習のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 保育内容（言葉）の目的、意義などに関する基本的な考え方を理解し説明している（知識・理解）。
2. 保育内容（言葉）の現状や課題をふまえながら、小論文や口頭で表現している（思考・表現）。
3. 保育内容（言葉）に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（意欲・態度）。

履修上の注意

単位修得のためには、最低 10 回の出席（無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。また、授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の参考書も活用してほしい。
『新時代の保育双書 保育内容 ことば』（成田徹男 著）・（株）みらい・2000 円＋税